

平成30年度第1回三田市総合教育会議 議事録

会議の名称	平成30年度第1回三田市総合教育会議
開催の日時	平成30年5月31日(木) 13時00分～14時05分
開催の場所	市役所本庁舎3階庁議室
出席した委員の氏名	森市長、鹿嶽教育長、虫明教育委員、中上教育委員、吉田教育委員、田口教育委員
出席した庶務職員の職及び氏名	赤松理事、高見健康福祉部長、岡崎学校教育部長、印藤地域戦略室長、奥こども室長、外岡学校教育部次長、田中政策課長、横溝健やか育成課長、古井学校教育課長、村岡学校教育課参事、上野教育総務課副課長、志水政策課事務職員、松田教育総務課指導主事
その他出席者	なし
傍聴者の人数	6人
議 題	・子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査結果(概要)について ・市立学校園のあり方について
会議の概要(結論)	子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査結果を報告するとともに、市立学校園のあり方の取り組みについて議論した。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	・子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査結果(概要)について ・市立学校園のあり方について
連絡先	地域戦略室 政策課 電話(079)563-1111 内線(2212)

1 開会

- ・印藤地域戦略室長の司会により開会、配付資料の確認等
- ・「三田市総合教育会議の運営等に関する規程」第4条第5項に基づき、議事進行を森市長に交代

2 議事

(1) 子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査結果(概要)について

<奥こども室長から説明>

田口委員：調査の結果について、市民や回答していただいた児童・生徒、保護者にはどのような形で公表されるのですか。

事務局(奥室長)：ヒアリングを実施した支援団体のほか、校園長会に報告しました。また支援者の輪を広げていく取り組みを考えており、今回の調査結果を受け地域団体や既存の団体等に呼びかけ、講演会等の実施を予定しているところです。

鹿嶽教育長：この調査を行う前まで、三田ではニュータウンには給与所得者が多く、所得階層の高

い世帯が多いと感じていました。その中で貧困内容をどのようなところに設定するかを考えた際に、全国の貧困内容とは少し違うものになるかなと思っていました。

調査結果を見ると、教育委員会としても重く受け止めなくてはいけない部分が多いと感じました。特に、概要報告書の7ページの自尊感情について、小中学生ともに分類が低いと事務局から説明がありましたが、小学生については分類ごとに大きな差がないように感じます。しかし中学生では、分類が他の分類と比べ自尊感情がかなり低くなっています。

また8～9ページの子どもの進学では、保護者は高校までと思っている人は約16%で、大学・短期大学・大学院までと思っている人が約70%ぐらいです。しかし中学生本人は、高校までと思っている生徒が約23%と、保護者よりも高い割合になっています。同様に大学に行こうと思っている中学生の割合も、保護者が思っているより低くなっています。

中学生になると、親の大変さを見て、自分自身で進学を諦めてしまっているように思いました。ある程度の学力があったとしても、家庭の状況を見ると高校は行けても、大学は到底無理で、就職して家庭を助けなければならないと自分で思ってしまうのではないかと思います。そして最終的には学習意欲の低下につながっているのかも知れません。

家庭の状況で、自分の夢を諦めさせてしまう状況は何とかしなければならぬと思います。今回の調査を通じてとても大きな課題だと感じました。

田口委員：自尊感情や自己肯定感、自己有用感というのは、自分が家庭や社会の中でどのように大事にされてきたかということになります。そして自尊感情や他尊感情、他人に対する尊敬の思いは、就学前に大きく育ちます。そのため保育園や幼稚園の就学前教育で、園児たちに対し、自分たちが先生や親から大事にされている、地域から暖かく見られていると思える環境づくりが重要になります。三田市では、小学生は自尊感情が高いという結果が出ていることは良いことだと思います。しかし当然中学校でも道徳教育や学校教育の中で自尊感情の育成を行っているにもかかわらず、急に低くなっているのが気になります。

吉田委員：三田市には所得が非常に高い人も多く、貧困のラインを引き上げているという説明もありましたが、その場合、苦しい家庭は一層苦しい状況になっているのではないかと窺えます。

自尊感情の問題についてですが、学校は、子どもの良いところを見つけ、励まし、自信をつけさせ、少しずつ高いステップに上げていくことを考えて取り組んでいます。しかし中学生で自尊感情が低くなっている結果を見ますと、やはり貧困が原因なのか、もしくは塾に行っている子と自分との学力の差を感じるにより自尊感情が低くなっているのではないかと思います。おそらく中学校でも自尊感情を高めるような授業のあり方を意識して取り組んでいると思いますが、このような結果になるということは、家庭の貧困という問題が学校教育の手の届かないところにあるのだと思います。学校は学校のステージでできることをすべてやっていくことが大切で、貧困や障害などを理由にするのではなく、すべての子どもが充実した学校生活を送れるようにすることをいつも意識してい

ます。

深刻なのは母子家庭で、母親の実家に帰り、そこで何とか生活はできている間は良いのですが、両親が介護状態になった時に働けず、さらに貧困の連鎖を起こしてしまうことがあるのではないかということはこのアンケート結果から感じました。子育てや介護があっても働ける環境づくりが必要だと感じました。

森市長：確かに三田市は所得が高い人も多く、経済的な格差がどの程度あるのかということ把握しておかなければならないと思いました。

事務局(横溝課長)：ひとり親の状況について、現在分析を進めているところです。分析ができ次第報告していきたいと考えています。

森市長：教育委員会で、何か子ども、特に中学生の意欲を高めるような取り組みを行っていますか。

事務局(古井課長)：吉田委員からもありましたように、学校ではすべての生徒を対象に達成感のある学びを実現させようとしています。合わせて互いに認め合うような課外活動やキャリア教育の充実のほか、地域の方々とのふれあいの中で自分の学びを認めてもらえるような学習をすること、また中学校では部活動に取り組むことで、子どもたちの自尊感情、自己有用感が高められると考えています。

田口委員：キャリア教育というのは、大学も含め長いスパンでの教育が必要だと思います。基本的には義務教育の中で完結しなければならないと思いますが、社会が複雑化していく中で、小中学校での知識や学力のみでは難しいと感じます。やはり高校や大学での教育が求められると思います。義務教育が終われば全人教育が終わったとは言えず、社会が変わっていく中で高校、大学での教育を求めるのは自然なことだと思います。しかし義務教育ではないので、学力はもちろん経済力も必要となります。

鹿嶽教育長：高校は基本的に無償化のため、ある程度進学しやすいと思います。しかし、その次のステップ(大学等)となりますと、経済的な問題が大きいというのが実態だと思います。繰り返しになりますが、他の分類に比べ分類の子どもたちが進学を諦めているというアンケート結果を見ると、ここに大きな課題があると感じました。

吉田委員：生活の困難さを子どもが感じ、自尊感情が低くなり、進学を諦めているということが大きな問題だと思います。保護者の経済状況を改善するしかないのかもしれませんが、子どもの自尊感情を高めるには、学校と家庭、地域それぞれの持ち場でしっかりやっていかなければならないと思います。様々な立場から子どもに関わり、育てていくことが大切だと思います。もっともっと、地域と学校が一体になって、コミュニティ・スクールの充実を図っていかねばならないと思いました。

森市長：三田市でも少しずつできていると思いますが、事務局では何か情報を知っていますか。

事務局(横溝課長)：コミュニティ・スクールや学習支援について、現在三田市では放課後子ども教室という名称で地域の方々も入り、色々な学習や体験ができる場を用意しています。

吉田委員：子ども食堂が生まれたきっかけは何ですか。

事務局(横溝課長)：最初から子ども食堂をしようというのではなく、地域で何かしたいという話があり、問題意識をもって取り組む間に最終的に居場所の一つとして子ども食堂という形になったと伺っています。

田口委員：この調査データを市民の方に広く公表して、地域の方から協力をするという声が上がれば良いと思います。

森市長：様々な機会を通じ取り組んでいきたいと思います。

(2) 市立学校園のあり方について

<外岡学校教育部長から説明>

森市長：今後の予定はどうなっていますか。

事務局(外岡次長)：策定した基本方針について、8月以降に保護者や地域への説明会を予定しています。中学校区を単位として市内8カ所で開催します。秋以降に各地域に具体的な案を提示し協議を進めてまいります。合意いただいた地域には、平成31年度以降に「地域協議会」を立ち上げながら具体的な検討を地域とともに進めていきたいと考えています。

森市長： 集団教育の意義、 通学方法の確保等、 学校跡地の有効活用の3点について、本日意見交換を行いたいと考えます。

吉田委員：昨年実施した教職員との話し合いの際に、中学校の先生から現行の部活動の状況等を伺い、課題は大きいと感じました。色々な部活動の選択肢が広まっている中での部活動と、これしかない中での部活動とは、違いが意欲にも関係してくる感じがします。学校の早い時期で規模を拡大することの必要性を非常に強く感じました。ここでは中学校からと記載がありますが、小中学校における学びの連続性というものを考えますと、小学校で培ってきた総合的な学習への取り組み、主に、ふるさと学習は、大きく転換しないといけなくなります。そうしたことの連続性を中学校でどのように保障していくのかということも、中学校だけを見た統廃合でなく、小学校との関連性として今後考えなければならないと思います。予算が許せば、できれば小中連携校で、新しい魅力ある学校ができないか

とを考えます。小中連携の一貫校を提案されますと、後も続きやすく、保護者も受け入れやすいのではと感じています。そうしたことを考えの中に入れてもらえるとありがたいと思います。

森市長：小中一貫型小学校・中学校（併設型）については、資料2の6ページに記載があり、検討を進めることとされています。

ただ今の吉田委員の意見に対し、事務局から説明する事項はありますか。

事務局（外岡次長）：部活動については、小規模校になると部員数が少なくなる状況が見受けられるほか、クラス数に応じた教員配置となりますので、顧問を担当する教員の数も十分ではありません。課題であると認識している学校もあります。

ふるさと学習については、小学校において里山学習を通じ、あるいは地域の方々の教えもいただきながら実施しているところです。これについては、校区が広がれば新たな校区での取り組みが必要となってまいります。

森市長：私の立場から言うのはどうかと思いますが、個人的には小中一貫校は一つくらいあっても良いのではと思っています。考えれば様々な課題があるかも知れませんが、色々な形があっても良いのではと考えます。

部活動については、私の経験上、部活動を通じた健全なスポーツ活動の中で人間として成長してきたことを考えると、できる限り団体競技を行える環境を整え、子どもたちには是非経験させてあげたいと思います。

中上委員：今週「トライやる・ウィーク」を実施しており、5人の生徒を受け入れています。子どもたちと話すと、授業の中では体育が楽しいそうです。スポーツができる環境を作ることが大事だと思います。子を持つ親としては勉強も大事ですが、クラブ活動も大切だと思います。学校は、仲間づくりや人と人とのふれあいの場でもあることを思うと、適正規模は大事だと思います。地域の方々に理解を求めるとするならば、新しい環境づくりを行わないと納得されないと思います。将来のことを考えると前へ進み、地域の活性化を図るべきと考えます。

虫明委員：一度に統廃合ではなく、例えば、分校のような形を取りつつ、できる限り地域性を守っていった欲しいと思っています。子どもたちにとっては、競争相手がある方が良いのですが、最終的には何事も自らが行わなければならないことですので、そうしたことを少人数の中で教えるのも大切だと思います。

田口委員：学校園のあり方審議会の答申が出ましたので、そういうものかと思っていますが、私は、統廃合という言葉がずっと出てくることはあまり好ましくないと考えています。ただ、こうした流れの中で、三田市の行おうとすることを見るときに、以前に住んでいた尼崎市と比較すると、尼崎市は結構統廃合を進めていますが、かつ、新しい施設も作っています。

一つの小学校に集めるのではなく、人々が夢や希望を持てる施設を、新しくとまれる場所として作っている。このように、先が見える、夢が語れる、新しい魅力を教育の場で作り、多くの人々が三田市に住みたい、子どもたちが成長しても三田市に戻ってきたい、そうした取り組みが何か必要だと思います。

鹿嶽教育長：地域にもっと多くの方々に住んでいただき、一定の規模まで農村部の小学校も大きくなるのであれば良いのですが、それは難しい部分があると思います。私自身、田舎に住んでいます。決して三田市はそんなに住みにくい所ではないと考えています。バスで30分程度でまちに行けるのですが、そこに住もうとしたときに、特に、近所の若い世代の人々の意見によると、「田舎に住んだとしても子どものことを考えると、今の場所が教育の環境として良いのだろうか」と疑問に感じてしまいます。ならば、子どもが小さい時はまちの学校に通わせたい、自分自身は田舎に住みたいのですが、子どものことを考えると一定規模の所に通わせたいと、どうしても選択してしまいます。」というようなことをよく聞きます。そうならば、田舎に住んでいても、子どもの教育環境は同一に整えることが重要であると思います。結果的には、学校がなければ地域が寂れるとよく言われますが、その反対の部分もあるのではと考えます。教育環境を整えることで、どこに住んでいても同じ教育を受ける機会が与えられているのであれば、田舎でも暮らせる、戻ってきたいと思っただけなのではないかと思っています。こうした点は、これから地域の皆様方と十分に話し合い、決して行政主導で進めるのではなく、良い方法性を導き出せればと考えています。

森市長：この問題については、今後とも総合教育会議の場においてできる限り議論させていただき、色々な形で市民の方々に関心を持っていただきたいと思います。

森市長：以上で本日の会議の議事は終了させていただきます。

3 その他

次回の総合教育会議は、今後日程調整を行うこととした。